

令和7年度 学校評価における 重点目標

①【学習】

学習、運動、学校行事等、すべての教育活動をととして「自分から 自分らしく」「できないことができるようになる」ためのチャレンジを支援し、達成感を味わわせることで自己肯定感・自尊感情を育てる取組を充実させる。

②【コミュニケーション力・挨拶】

授業中での言語活動の充実を図り、実生活の中でよりよい人間関係を育むためのコミュニケーション能力を高める。コミュニケーションの基本である挨拶を、誰にでも自分から進んでできる児童を増やす。

③【学力】

全教科において伝え合う力を大切にするとともに、「汎用的読解力」の育成を目指し研修を重ねる。課題の発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践をすすめ、学ぶ意欲や習慣を身に付けた児童の育成を図る。

④【健康・体力向上】

体づくり運動や体幹を鍛える運動を積極的に取り入れるとともに、規則正しい生活習慣の重要性を家庭に啓蒙し、体力向上を図る。

⑤【環境・安心安全】

清掃活動に重点をおくとともに、教職員による安全点検を徹底し、清潔で安心安全な環境整備に取り組む。保護者、地域や関係機関と連携し、安全教育の取組をすすめる。

⑥【連携】

学校運営協議会、地域学校協働活動の適切な運用を図るとともに、HP や X(旧 Twitter)、学校・学級だより、懇談会等をととして、積極的に情報発信し、保護者・地域との連携を深める。

令和7年度 学校評価(具体的達成目標と評価指標)

「1」 (重点課題番号) 評価項目	[2]具体的達成目標と評価指標
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化
	公表日 7月1日
	☒ ホームページ 公表方法 ☐ 文書配布 ☐ 説明会実施 ☐ その他
①	○児童に関する情報を共有するための会議を開催し、全教職員で共通理解を図る。(児童理解全体会議:年2回、生指部会:月1回) ○「自分から自分らしく」進められる学習や活動を充実させる。 ○主体的・対話的で深い学びのある授業、「できないこと」が「できるようになる」授業の工夫に取り組む。(めあての意識化・学びの焦点化・振り返りの設定・ICTの活用) (児童アンケートで「学校へ行くことが楽しみ」と答える割合を8割以上にする。)
②	○生活目標を具体的なめあてとともに掲げ、取組を進める。 (児童アンケートで「自分から進んで挨拶をしている」と答える割合を8割以上にする。) ○各教科での言語活動の充実、学級活動等での話合いの充実を図る。
③	○校内研究教科を全教科とし、研修を深める。(「汎用的読解力」、「自分の思いや考えを伝え合う力」の育成) ○各学年よりそれぞれ授業公開を実施し、研究主題に沿った授業研究を深め、授業力向上を図る。 ○家庭と連携し、家庭学習の充実を図る。
④	○毎朝の体づくり体操を継続するとともに、効果的な「体づくり運動」の取組を工夫して進める。 ○体幹を鍛えるトレーニングの取組を引き続き実施し、定着させる。 ○規則正しい生活習慣の確立について、家庭と連携して進める。
⑤	○命を守る行動を身に付けるため、避難訓練・薬物乱用防止教室・交通安全教室・ネットスマホ安心安全教室をそれぞれ実施する。 ○清掃活動の充実、教職員による安全点検(月1回)、見回り等を通じて、安心安全な学校生活のための環境整備に取り組む。 (児童アンケートで「校内がきれいになるようにしている」と答える割合を9割以上にする。)
⑥	○年間を通じて外部団体や学校ボランティア等による指導を受ける機会を設け、様々な立場の人々との出会いのなかで体験的な活動の充実を図る。 ○ICTの活用により、外部とつながる体験的な学びの充実を図る ○HPやX(旧Twitter)、学校・学級だより等、積極的な情報発信に努める。そのための校内体制の整備を進める。